

平成 30 年度 大阪緑涼高等学校 学校評価（報告）

<学校評価>

1. 目指す学校像

2. 中期目標

○学習指導

○生活指導

○教員研修

○進路指導

○地域連携

○広報活動

○その他の領域

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

<学校関係者評価>

◆藤井寺市区長会会長、藤井寺市春日丘自治会区長との意見交換

◆学校関係評価を受けて（職員会議議事録）

<アンケート報告>

◆生徒・保護者アンケート

平成 30 年度 大阪緑涼高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

- (1) 生徒に学ぶ楽しさ・意義を丁寧に教える学校
- (2) 基礎学力がしっかりと身につく教育・指導を行う学校
- (3) 自校教育とともに、心の教育を行う学校
- (4) 楽しく、活気のある学校
- (5) 教職員と生徒が丸となり、思いやりと礼節にあふれる学校
- (6) 生徒と保護者に安心と信頼が持てる学校
- (7) クラブ活動や課外活動が活発な学校
- (8) 地域に貢献し、密に地域と連携できる学校
- (9) 人命及び人権を尊重し、いじめ・差別・暴力のない学校

2. 中期目標

○学習指導

- (1) 私語等は他の生徒への迷惑行為であり、授業妨害であることを理解させる。
- (2) 教員の出張等による自習については、補講を行い、授業時間数を確保する。
- (3) 補習体制を強化し、留年生を減少させる。勉強クラブだけではなく、個々の質問に応じる体制をさらに構築する。自習中にも教員指導を受けられるよう、教員の配置や巡回を検討する。
- (4) 各種検定試験合格に向けての支援を一層充実させる。

○生活指導

- (1) 遅刻・欠席の多い生徒については、原因を把握した上で保護者とも連携・協力して生活指導を行い改善につなげる。
- (2) 不登校・留年・転学・退学の数を減少させるように数値を明示し、原因の萌芽を摘み取る早期対策を講じる。教育・指導効果が上がるように担任・副担任・学年主任・関係委員会のみならず、適宜、校長・校長補佐・教頭補佐に連絡を行い、組織として情報把握することで、有効的な改善策を早期に講じる。
- (3) 校則に違反している生徒については、まずは校則遵守の意味を丁寧に説明し、社会につながる上で必要であることを具体的に理解させていく。点検・指導していく際には、教員によって基準が大幅に異なったりすることのないよう、また生徒から不平等・理不尽と思われないように全教職員の同一理解と指導体制の構築が必要となる。
- (4) 授業を阻害する行為については、担当教員のみならず担任・学年主任・教科主任等と連携して原因把握・分析を行ない、重層的な教育を行う。

○教員研修

- (1) 男女共学での教育・指導方法を精査しながら本校に合うように固めていく。
- (2) 研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。
- (3) コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努める。
- (4) 授業内容改善・充実のため、従来より効果が上がるように検討し、公開授業や授業アンケートを実施する。
- (5) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。
- (6) 大学新テストに向けて本校で行うべき取り組みを具体的に策定する。

○進路指導

- (1) 早期より多様な選択肢を具体的にイメージできるように指導する。
- (2) 学んでいることが、進路や将来にどのようにつながるのかを明示することで、学習意欲を高める。
- (3) 一人ひとりの成績資料等の情報を活かし、組織的な進路指導を行う。
- (4) 系列大学との高大接続を進めて、受験のために必要な知識を身につけ思考力がつくように早期から教育・指導していく。
- (5) 学生の希望する短期大学・4年生大学の高大接続を意識した学習を授業内容に盛り込む。
- (6) 指定校の充実と開拓に努める。
- (7) 就職の場合にも多様な中から選択できるように就職先の開拓を進める。

○地域連携

- (1) 地域清掃や献血等の奉仕活動を定期的に行う。
- (2) 保育所・幼稚園や地域の親子の散歩コースとして、キャンパスを開放する。
- (3) 定期的に絵本講座を開催する。
- (4) 本学の教員が中心となって公開講座や講習を行う。

○広報活動

- (1) 日々の授業や生徒指導が広報活動にもつながっているという意識を持つ。
- (2) 渉外担当だけでなく、実際に授業やクラブを担当している教員が広報活動に積極的に係わっていく。私学展やイブニング説明会等も教員が主体的に意見を出し合い、教職員一丸となって運営していく。
- (3) 学校案内のパンフレット・ホームページを各科・各コース・クラブなどの魅力がしっかりと伝わるように充実していく。
- (4) オープンスクール等について、前年度踏襲ではなく、あらたな発想で構築し実施する。全教職員の力を結集し本校の魅力を伝え、思いやりと礼節にあふれた対応を行い、来校した生徒・保護者に魅力あふれる高校と思ってもらおう。

○その他の領域

- (1) 生徒会を中心に、校内外のマナー向上を検討し、実践していく。
- (2) 美化につながる方策を教職員と生徒で熟考し、あらたな取り組みを実践していく。
- (3) 防犯・健康増進につながる対策をさらに講じていく。
- (4) 危機管理対策について、スムーズに運用できるように体制作りを行う。
- (5) 教員がこれまで課題であったけれど進まなかったと思うこと、合理的でないと思うこと、教育指導上において効果的だと思うこと等について、校長・校長補佐・教頭補佐に相談しやすい体制を構築する。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

[自己評価アンケートの結果と分析(平成30年2月実施分)]	学校評価委員会からの意見
<p>□学習指導</p> <p>○教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている 肯定的意見（生徒61.1%、保護者57.2%） 中間的意見（生徒27.2%、保護者30.7%） 否定的意見（生徒11.7%、保護者12.1%）</p> <p>思春期の生徒にとって、最も身近な相談相手として教員がさらに存在感を高めようよう研鑽に努め、ケア的な関わりでサポートしていく必要がある。</p> <p>○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている 肯定的意見（生徒54.5%、保護者49.0%） 中間的意見（生徒34.9%、保護者39.3%） 否定的意見（生徒10.5%、保護者11.7%）</p> <p>「わかる授業」で生徒の基礎学力の回復と学ぶ意欲の向上を図り、自己肯定感を高められるよう、各教科での実践の研究・検討が急務となっている。</p> <p>○教員は、英語検定や漢字検定の希望する級に合格するよう、または、将来に必要な資格を取得できるように支援している 肯定的意見（生徒61.8%、保護者58.7%） 中間的意見（生徒31.1%、保護者30.2%） 否定的意見（生徒7.0%、保護者11.1%）</p> <p>放課後の英語検定対策講座、特別編成コースの対策授業に対する理解の高まりはうかがえるが、今後はそれぞれの合格率を検証し、教育内容の精選に取り組み、より丁寧なサポートに努めたい。</p>	<p><相談等に丁寧に応じている> 生徒への対応が丁寧であり、肯定的意見が生徒61.1%、保護者57.2%であり、中間的意見と合わせると生徒88.3%、保護者87.9%がそう思っている。今後100%を目指し、教員の資質向上と、きめ細やかな対応をはかる。</p> <p><授業のわかりやすさ> 生徒・保護者とも50%ほどであり低いと思われる。公開授業・参観日などによる、授業の内容の工夫・改善を行う必要がある。また、校内研修会を開催し改善に努める他に、外部の勉強会・講演会などにも積極的に参加し、授業研究をしていく必要がある。</p> <p><各種資格取得支援> 否定的意見が生徒7.0%、保護者11.1%あり、ほとんどの生徒が取り組みに理解を示している。また、大学・短期大学等の入試や就職試験等に関する資格、卒業後に仕事で活用できる資格について、早期から重要性を説明し、各種資格取得に努めたい。</p>
<p>□生活指導</p> <p>○入学してよかった・させてよかった 肯定的意見（生徒63.2%、保護者73.7%） 中間的意見（生徒24.7%、保護者16.0%） 否定的意見（生徒12.0%、保護者10.3%）</p> <p>保護者の肯定的な回答が一定の水準に達しているものの、生徒の高校生活への満足度は学校・教員との信頼関係を如実に反映するものであり、あらゆる教育活動を通して数値の抜本的な引き上げに取り組む必要がある。</p> <p>○学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している 肯定的意見（生徒56.7%、保護者54.6%） 中間的意見（生徒32.1%、保護者34.5%） 否定的意見（生徒11.2%、保護者10.9%）</p> <p>心身のケアを必要とする生徒に対して十分な支援が届いている数値とは言えない。一人ひとりの生徒への目配りを徹底し、保健室と緊密な連携を重ね、より手厚いサポートを行いたい。</p> <p>○教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒の理解やクラス作りのために積極的に活用している 肯定的意見（生徒55.1%、保護者54.6%） 中間的意見（生徒30.5%、保護者31.7%） 否定的意見（生徒14.4%、保護者13.7%）</p> <p>朝夕のSHRやLHRでクラス・生徒の些細な変化をも見逃すことなく、時宜を得た指導を行う必要がある。研修等を通してクラス集団は「作る」ものであることを共通認識として生徒との関わりを見直す必要がある。</p> <p>○緑涼祭や芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している 肯定的意見（生徒72.0%、保護者74.8%） 中間的意見（生徒21.3%、保護者18.0%） 否定的意見（生徒6.8%、保護者7.2%）</p> <p>行事や部活など課外活動の楽しさと充実感の高さは本校教育の中核であり、生徒保護者のニーズにより高いレベルで応えていくためにも取り組みをさらに強化させていきたい。</p> <p>○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している 肯定的意見（生徒59.5%、保護者55.6%） 中間的意見（生徒32.5%、保護者36.0%） 否定的意見（生徒8.0%、保護者8.4%）</p> <p>生徒・保護者ともに否定的な回答が少なく、この分野における教員の献身的な努力が評価されている。部活や生徒会への指導を質・量ともに向上を図り、肯定的回答70%超を目指したい。</p> <p>○学校は、遅刻や身だしなみ・髪型について、適切な指導を行っている 肯定的意見（生徒59.7%、保護者60.4%） 中間的意見（生徒27.9%、保護者24.1%） 否定的意見（生徒12.4%、保護者15.5%）</p> <p>学校生活の基本に関わる指導に否定的な回答が少ないことから、生徒、保護者ともに一定の理解が得られていると思われる。今後も生徒の状況に応じたより丁寧な指導を重ねていきたい。</p>	<p><入学してよかった> 保護者からの一定の信頼を得ている。今後より一層の生徒の満足度を向上させ、保護者との信頼関係を築いていきたい。</p> <p><生徒の健康維持を支援> 過半数が健康維持を意識している。今後も保健便りや掲示物を活用しながら、保健室やカウンセラーと協力し、健康促進を促していく。</p> <p><生徒の理解やクラス作りの積極的取り組み> 緑涼祭や課外活動の高評価に比べるとホームルーム活動の肯定感が低いのでより一層充実したクラス作りを目指す。</p> <p><クラブ・生徒会活動の支援> 否定的な意見が少ないがさらに、中間的意見を満足させる活動の取り組みが必要である。</p> <p><学校生活における適切な指導> 生徒の肯定的意見が59.7%、保護者60.4%であった。中間的意見を合わせると生徒87.6%、保護者84.5%であり、一定の理解を得ている。今後より一層丁寧な指導に取り組む。</p>

<p>○学校は、いじめ防止のためにアンケートなどで実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている</p> <p>肯定的意見（生徒 51.1%、保護者 41.9%） 中間的意見（生徒 32.7%、保護者 38.3%） 否定的意見（生徒 16.2%、保護者 19.8%）</p> <p>いじめの実態解明と解決には生徒・保護者との丁寧な連携や信頼関係が不可欠であり、背景も含めた深い生徒理解のために研鑽を重ね、そうした関わりを構築していきたい。</p> <p>○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している</p> <p>肯定的意見（生徒 55.5%、保護者 41.6%） 中間的意見（生徒 35.5%、保護者 41.8%） 否定的意見（生徒 9.0%、保護者 16.6%）</p> <p>生徒の否定的回答の低さから、本校の取り組みに対する理解と評価がうかがえるが、保護者はわが子の家庭生活での様子からその成果を実感し得ていないと考えられる。生徒の人格形成に資する一貫した高い人権意識を根付かせるよう努める必要がある。</p>	<p><いじめ防止の取り組み・人権教育></p> <p>学期ごとのアンケートと日常的な生徒の動向を把握する必要がある。保護者との連携を密にし、生徒たちが相談しやすい環境作りに努める。</p> <p>一方で、生徒たちは教員がいじめ問題や人権問題に取り組んでいると感じているが、保護者まで伝わりきれていないと思われるのでさらに、伝達方法を検討していく。</p>
<p>□教員研修</p> <p>○学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている（例：「思いやりと礼節」挨拶の習慣ができるように教育・指導している等）</p> <p>肯定的意見（生徒 52.3%、保護者 50.6%） 中間的意見（生徒 34.8%、保護者 35.2%） 否定的意見（生徒 12.9%、保護者 14.2%）</p> <p>毎朝の正門指導でのあいさつ励行や各種生徒集会での校長講話などを通して、建学の理念・教育目標は伝達している。今後はさらに、教育活動の細部にこれを反映させ、実践として結実させていきたい。</p>	<p><建学の理念や教育目標の理解></p> <p>概ね建学の理念や教育目標は理解しているように思われる。中間的意見の生徒たちに対してもさらに、丁寧に伝え指導していく必要がある。</p>
<p>□進路指導</p> <p>○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している</p> <p>肯定的意見（生徒 60.4%、保護者 57.4%） 中間的意見（生徒 32.0%、保護者 31.1%） 否定的意見（生徒 7.6%、保護者 11.5%）</p> <p>教員がアドバイザーとしての専門性を一定程度発揮できている。生徒との信頼関係を深め、常に化する進路情報を収集し、よりの確で親身な指導を実現できるよう資質向上の機会を重ねていきたい。</p> <p>○授業内容や模擬試験が進路に対応している</p> <p>肯定的意見（生徒 53.5%、保護者 42.5%） 中間的意見（生徒 36.1%、保護者 43.8%） 否定的意見（生徒 10.4%、保護者 13.8%）</p> <p>保護者の数値の低さは望んでいた進路の実現が、現状の授業では困難であるという認識の反映と考えられる。それぞれの生徒の希望が叶えられる学校、授業実践はより信頼される学校に飛躍する上で不可欠である。</p>	<p><個別進路指導・授業や模試が進路に対応></p> <p>概ね丁寧な指導ができている。生徒たちが希望する進路情報を的確に提供し、進路実現に向け取り組む。</p> <p>授業内容や模擬試験の取り組みが進路実現に対応し切れていない部分がある。今後、生徒たちに分かりやすく進路指導を進めていく。</p>
<p>□その他の領域</p> <p>○学校は、お便りや谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている</p> <p>肯定的意見（生徒 52.4%、保護者 55.0%） 中間的意見（生徒 31.9%、保護者 29.6%） 否定的意見（生徒 15.7%、保護者 15.4%）</p> <p>学校生活の様子や連絡事項は適宜保護者に知らせる各種ツールを重層的に活用し、さらに、徹底する必要がある。最も確実とされる谷学ネット登録率向上を図り、家庭との緊密な連携を図りたい。</p> <p>○学校は、施設設備を適正に整備し、高校生活に支障がないよう、安全管理ができている</p> <p>肯定的意見（生徒 58.6%、保護者 65.6%） 中間的意見（生徒 31.0%、保護者 23.5%） 否定的意見（生徒 10.4%、保護者 10.8%）</p> <p>老朽化が進む3号館や体育館に加え、1号館も築20年が経過し、メンテナンスが必要となってきた。安心して安全、快適な教育環境整備に積極的に取り組んでいきたい。</p>	<p><学校の様子をお知らせ></p> <p>谷学ネットやホームページにより学校の様子を発信しているが、まだ伝わりきれていない部分がある。保護者との連携を図るため、谷学ネットやホームページの運用により有効的な活用を図る。</p> <p><施設設備の完全管理></p> <p>生徒たちが丁寧に使用してくれているため、肯定的意見と中間的意見を合わせると生徒 89.6%、保護者 89.1%が満足している。設備として老朽化が進んでいるため、安全面を考えると整備が必要である。</p>

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	<p>(1) 教員の出張等による自習については、補講を行い、授業時間数を確保する。</p> <p>(2) 補習体制を強化し、留年生を減少させる。勉強クラブだけではなく、個々の質問に応じる体制をさらに構築する。自習中にも教員指導を受けられるよう、教員の配置や巡回を検討する。</p> <p>(3) 各種検定試験合格に向けての支援を一層充実させる。</p>	<p>・教員への指導を徹底</p> <p>・外部講師による放課後学習</p> <p>・自習室の確保</p> <p>・長期休暇中のクラス単位の学習</p> <p>・漢字検定</p> <p>・英語検定に対する放課後セミナー</p>		<p>(1) 教員の出張等による授業の遅れに対しては、教科内で周知し課題や補講授業で対応し、授業の遅れがないようにした。</p> <p>(2) テストの欠点者に対して、補習授業を行い学習の遅れや知識不足を補うことで、授業についてこれない生徒を減らすことに努めた。外部講師による放課後学習の見直しを検討するとともに講師と懇談を持つことで生徒の学習状況等の把握を行った。また、放課後学習に関しては外部講師と教員との情報共有などの課題が挙げられる。自習に関しては、職員室に一番近い大教室を開放し、質問があればいつでも職員室を訪ねて来られるよう体制を整え、職員室前にも自習できるスペースの確保をした。事前に生徒へも質問があれば職員室を訪ねるように周知していたこともあり、特にテスト前には多くの生徒が質問へ訪れ、各教科の教員が対応した。今後もこの自習体制は継続する。</p> <p>(3) 新入試制度に対応する目的で、英語検定試験に対して文理ハイレベルコースでは通常授業に科目として設置し、その他の学科・コースでは、外部講師による「英検セミナー」と題して準2級、2級対象に放課後学習講座を開講した。しかし、新入試制度への英語検定の必要性が理解できていないこともあり、外部講師による「英検セミナー」への参加者が少なく、今後、英語検定の必要性について保護者も含めて周知する必要がある。</p> <p>・漢字検定結果 2級：受験者数14名 合格者数1名（合格率7.14%） 準2級：受験者数31名 合格者数2名（合格率6.45%） 3級：受験者数27名 合格者数2名（合格率7.41%）</p> <p>・英語検定結果 2級：受験者数5名 合格者数3名（合格率60%） 準2級：受験者数27名 合格者数5名（合格率18.5%） 3級：受験者数4名 合格者数3名（合格率75%）</p>
生活指導	<p>(1) 遅刻・欠席の多い生徒については、原因を把握した上で保護者とも連携・協力して生活指導を行い改善につなげる。</p> <p>(2) 不登校・留年・転学・退学の数を減少させるように数値を明示し、原因の萌芽を摘み取る早期対策を講じる。教育・指導効果が上がるように担任・副担任・学年主任・関係委員会のみならず、適宜、校長・校長補佐・教頭補佐に連絡を行い、組織として情報把握することで、有効的な改善策を早期に講じる。</p> <p>(3) 校則に違反している生徒については、まずは校則遵守の意味を丁寧に説明し、社会につながる上で必要であることを具体的に理解させていく。点検・指導していく際には、教員によって基準が大幅に異なったりすることのないよう、また生徒から不平等・理不尽と思われるように全教職員の同一理解と指導体制の構築が必要となる。</p> <p>(4) 授業を阻害する行為については、担当教員のみならず担任・学年主任・教科主任等と連携して原因把握・分析を行ない、重層的な教育を行う。</p>	<p>保健室、カウンセラー、治療機関などとの連携</p>	<p>毎日実施</p> <p>毎日・週1実施</p> <p>毎日実施</p> <p>毎日・週1実施</p>	<p>(1) 毎朝の校門指導を3名から4名体制に強化し、教員から積極的に声かけ・挨拶を行っている。その際の生徒の反応や表情を丁寧に観察し、担任や教科担当と共有することで欠席や遅刻の原因ともなる生徒の心身の状況に応じた指導を行うように努めた。</p> <p>(2) 毎週、不登校委員会（管理職、養護教諭、カウンセラー、各学年担当）を開催し、「気にかかる生徒」の状況について詳細な報告を行って情報共有を図った。今年度より男子生徒が入学したので、保健室内での女子生徒への配慮を行いながら、臨機応変に対応を行った。1学期は男子生徒の来室が目立ったが、2学期に入り落ち着いた。内科では、頭痛（片頭痛）、腹痛を訴える生徒が多く感じられた。また、身体的不調の背景に心の不調（精神面）が隠れている生徒もあり、担任と連携を取り必要に応じてカウンセリングも視野に入れながら対応した。</p> <p>(3) 学年で集まる機会やホームルームの時間を通じて指導方針や校則について説明し理解させ、保護者にも連絡を取り協力をお願いするようしてきた。身嗜みや遅刻指導を「停学」へ直結させず、生徒たちの自律的な姿勢を育むために、どのように内面に訴えかけるか検討する必要がある。言葉遣いについては、常日頃からこちらが指導をしなければならぬ事案である。生徒と同じような対応をしないように教員が意識しなければならない。頭髪指導に比して、化粧、スカート、爪、カラーコンタクトの指導は不十分な点を残しているが、約60%の生徒が「学校の指導は適切である」（否定的回答は16%）と評価しており、指導が浸透しつつあることがうかがえる。今後は研修会などを通じてジェンダーに配慮した指導のあり方について、学習と検討が迫られている。</p> <p>(4) 生徒に対して、機会あるごとに授業に集中することの大切さを説くことで、静粛で落ち着いた学習環境が定着してきている。各学年会でクラスの授業態度等について情報共有を図り、授業担当や担任まかせにせず、集団的な指導体制で対応した。一方で「わかりやすい授業が行われている」は54%にとどまっており、教員側の授業改善の取り組みも並行して追求すべき課題である。</p>

<p style="text-align: center;">教員研修</p>	<p>(1) 男女共学での教育・指導方法を精査しながら本校に合うように固めていく。</p> <p>(2) 研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。</p> <p>(3) コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努める。</p> <p>(4) 授業内容改善・充実のため、従来より効果が上がるように検討し、公開授業や授業アンケートを実施する。</p> <p>(5) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。</p> <p>(6) 大学新テストに向けて本校で行うべき取り組みを具体的に策定する。</p>	<p>・系列高校との学習・交流・見学</p> <p>・校内での講座・研修会実施</p> <p>・官制・民間の各種教育研究会・教員研修会への参加案内と促進</p> <p>・3 高校合同教員研修会の実施</p> <p>・各教員の公開授業</p> <p>・学内教員研修会の実施</p>	<p>適宜実施</p> <p>適宜実施</p> <p>2学期に1週間、公開授業を実施</p> <p>年1回以上実施</p> <p>年1回実施</p> <p>適宜実施</p>	<p>(1) 先行して共学化を図り、地元地域に定着した系列高校である、大阪商業大学高校、大阪商業大学堺高校の教育活動（募集イベント、体育祭、文化祭）に参加し、本校の実態に即した教育のあり方、指導方法について学んできた。</p> <p>(2) 50%あまりにとどまっている「わかりやすい授業が行われている」の回答を踏まえ、研修会参加、公開授業を積極的に活用し、各教科会議で授業実践の分析と検討を行えるよう準備を進めている。研修会では、広報入試委員会より本校の各学科・コースの目標や特徴について学習し、授業にも反映させるよう努めた。現場が直面する課題にこたえうる研究者の講演や3 高校持ち寄りの分科会設定など内容の充実、教職員間の親睦が図れるよう三校間で輪番開催している。今年度は8月に船越勝氏（和歌山大学教育学部教授）による『子ども理解と教師の仕事』と題した講演と8つの分科会、交流会が大阪商業大学堺高校を会場に開催された。</p> <p>(3) (4) 各教員が公開授業を実施し、他教員の授業を見学する形式で毎年継続的に実施している。見学後に意見交換を交え、授業研究や授業内容を点検し、自己研鑽に役立てている。「出前授業」や初めての保護者授業参観（11月）などに取り組み、授業公開を進め、教室の「風通し」を図る中で、自らの実践を相対化し、スキル向上につなげた。</p> <p>(5) アンケート結果を学校評価委員会で分析・検討し、課題を明確にした上で翌年度の取り組みに反映させた。</p> <p>(6) 英語科では新制度入試に対応して英語4 技能検定の受検方法の策定に向けて検討・策定にあたった。当該学年となる1年生は総合的学習の時間（進路学習）で新テストについて説明を行った。保護者に対しては11月の参観授業後の懇談会で「大学入試改革『新テスト』に備える」と題して、ライセンスアカデミーの河村治氏より講演をいただき、周知を図った。</p>
<p style="text-align: center;">進路指導</p>	<p>(1) 早期より多様な選択肢を具体的にイメージできるように指導。進路先の確保</p> <p>(2) 系列大学との高大接続を進めて、受験のために必要な知識を身につけ思考力がつくように早期から教育・指導していく。</p> <p>(3) 学生の希望する短期大学・4年生大学の高大接続を意識した学習を授業内容に盛り込む。</p> <p>(4) 指定校の充実と開拓に努める。</p> <p>(5) 就職の場合にも多様な中から選択できるように就職先の開拓を進める</p>	<p>・主に「総合の探求の時間」を利用し、短期大学・四年制大学・専門学校の違いや学部・学科の選び方、系列大学の紹介、協定校・指定校の周知、保護者との懇談</p> <p>・系列大学</p> <p>・4年制大学・短期大学</p> <p>・専門学校</p> <p>・指定校について</p> <p>・協定校について</p> <p>・入試方法について</p> <p>・閲覧しやすいようにまとめる</p>		<p>(1) 総合的な学習の時間において、進路ガイダンス・学部学科を調べよう・系列大学説明会など様々なテーマを通じて進路に対する知識と意識を向上させた。また、3年生による進路選択体験談を2年生対象に話す機会を設けた。</p> <p>(2) 昨年度は5名の進学があったが、今年度は残念ながら系列大学への進学はいませんでした。高大接続授業で系列大学である大阪商業大学から講師を招き、「ビジネスアイデア甲子園」の考え方、アイデアの出し方などを講義していただき、系列大学の良さも知ってもらったが、進学へは結び付かなかった。今後も系列大学との連携は行っていく。また、要因として経済・経営、芸術へ進学を希望する生徒が少なく、保育・看護・栄養系など資格を目指す進学先が多かったことも考えられる。</p> <p>(3) 4年制大学26名（22%、前年度35.8%）、短期大学37名（31.4%、前年度30.6%）の生徒が進学した。前年度と比較して4年制大学への進学は大幅に減少したが、概ね希望する大学へ進学できた。専門学校27名（22.9%、前年度24.6%）の生徒が進学した。</p> <p>(4) 指定校に関しては、職員室前に掲示するなど生徒の目に触れるところにあるため希望する生徒が多かった。また、1、2年生にも閲覧できるので、進路に対する意識の向上にも繋がった。藍野大学短期大学部と協定を結び、担当者間の連絡を密にとり、公募制推薦試験での状況を把握した結果、指定校推薦の他に2名合格した。今後も協定校を増やし密に連携を取りながら進学に役立てる。4年制大学では指定校推薦（31%）、公募推薦（48%）であり、短期大学では指定校推薦（58%）、公募推薦（18%）であり、指定校推薦を利用する生徒が多かった。また、専門学校に関しては、指定校推薦（20%）、AO入試（67%）とほとんどがAO入試を利用している。これら状況から4年制大学、短期大学では指定校枠を確保することが重要であると考えられた。</p> <p>(5) 様々な職種があるため検索しやすいように分野別にまとめ、進路指導する際には、クラスを進学と就職に分け目的別に指導を行った。特に就職希望の生徒には面接等の指導を中心に行った。今年度は14名（11.9%、前年度3.7%）であった。</p>

<p>その他</p>	<p>(1) 生徒会を中心に、校内外のマナー向上を検討し、実践していく。</p> <p>(2) 美化につながる方策を教職員と生徒で熟考し、あらたな取り組みを実践していく</p> <p>(3) 防犯・健康増進につながる対策をさらに講じていく。</p> <p>(4) 危機管理対策について、スムーズに運用できるように体制作りを行う。</p> <p>(5) 教員がこれまで課題であったけれど進まなかったと思うこと、合理的でないと思うこと、教育指導上において効果的だと思うこと等について、校長・校長補佐・教頭補佐に相談しやすい体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー意識の向上 ・具体的な企画の立案・実施 ・環境美化活動を企画・実施 ・美化意識の向上 ・講習会 ・緊急支援物資の購入 ・講習会等の実施 ・定例会議での議事録の閲覧による問題意識の共有化 ・教員との率直な意見交流の機会を実施 	<p>年複数回実施</p> <p>学校全体で行う定期的な清掃活動の実施</p> <p>適宜購入</p> <p>年数回実施</p> <p>適宜実施</p>	<p>(1) 生徒会で「今月の目標」を討議・決定し、校舎や教室内に掲示。全校生徒にマナー向上を呼びかけた。また、生徒会主催でクラブ員を中心に年2回の地域清掃活動に取り組んだ。さらに4月には正門での挨拶運動に取り組んだ。</p> <p>(2) 教員・生徒会を中心に、ホームルーム教室のみならず、廊下や特別教室の清掃、整理・整頓に努める指導を行ってきた。2ヶ月に一度の大掃除をはじめ、清掃に関しては徹底されていた。整理・整頓に関しては普段からの習慣付けがまだ浸透せず、クラスによる到達度に差が見られる。今後、自身の持ち物に関して整理・整頓する意識付けを徹底する必要がある。</p> <p>(3) 避難訓練、教員対象 AED 講習会や AED のバッテリー、パッドの交換など設備面での安全確保と防災対策を施した。美しい制服の着こなし講座、ネット使用におけるトラブル防止に向けて、性教育講演会、薬物乱用防止講演会など様々な講習を行った。</p> <p>(4) 学校周辺の駐停車や騒音による近隣トラブルに関して情報共有を図り、一貫した対応を構築している。募集イベント、公開行事などの際に警備体制の強化について管理職を中心に協議し実行した。</p> <p>(5) 校名変更、学科コースの見直し、男女共学化など、学校を巡る状況が激変する中で、様々な意見や思いが交錯したが、「相談しやすい体制の構築」へ向けた取り組みの中で、生活指導面の課題など少しずつ変えることができた。</p>
------------	---	---	--	--

学校関係者評価 懇談会議事録

日 時：令和元年 10 月 7 日（月）13 時 00 分～14 時 25 分

場 所：事務棟 2 階 会議室

出席者：藤井寺市区長会会長、春日丘区長、校長、副校長（進行）、教頭（司会）、調理製菓科長、事務長（書記）

○自己紹介

○校長挨拶

はじめに、藤井寺市区長会会長、春日丘区長に対し来校いただいたことへの御礼が述べられた。その後、藤井寺市内にある 3 つの中学校から本校への入学者が前年度に比べ今年度は 21 名増加しており、地域及び家庭と連携することで地域の皆様に本校の教育内容が徐々に浸透しつつあるとの報告があった。また、本校も開校 64 年を迎え、あらたな 70 周年に向け、引き続き藤井寺区長会会長、春日丘区長にご支援を賜りたいと述べられた。

○資料「平成 30 年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、副校長より以下の報告がなされた。

1. 目指す学校像

資料をもとに以下 9 項目について説明された。

- (1) 生徒に学ぶ楽しさ・意義を丁寧に教える学校
- (2) 基礎学力がしっかりと身につく教育・指導を行う学校
- (3) 自校教育とともに、心の教育を行う学校
- (4) 楽しく、活気のある学校
- (5) 教職員と生徒が一丸となり、思いやりと礼節にあふれる学校
- (6) 生徒と保護者に安心と信頼が持てる学校
- (7) クラブ活動や課外活動が活発な学校
- (8) 地域に貢献し、密に地域と連携できる学校
- (9) 人命及び人権を尊重し、いじめ・差別・暴力のない学校

2. 中期目標

副校長より、中期目標に対する自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見に対して、昨年度との変更点が示された。内容として、昨年度は回答について肯定的意見と否定的意見のみであったが中間的意見を設けているとの説明があった。その後、以下の内容について説明が行われた。

○学習指導

・「教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている」について、肯定的意見 61.1%、中間的意見 27.2%となっているが、まずは中間的意見を

肯定的意見に向くようにしたいと説明がなされた。また、保護者の肯定的意見が57.2%となっているのは教員と接触していないからとも考えられ、否定的意見が12.1%なので丁寧に応じていないとは言えない部分もあるとの説明がなされた。

・「教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている」に対して、支援体制は構築できているとの説明がなされた。

・「教員は、英語検定や漢字検定の希望する級に合格するよう、または、将来に必要な資格を取得できるように支援している」については、英語検定対策講座、特別編成コースの対策授業に対する理解の高まりはあるので、より丁寧なサポートに努めたいとの説明がなされた。

○生活指導

・「入学してよかった・させてよかった」については、肯定的意見63.2%、否定的意見12.0%であるが、否定的意見を1桁に持っていきけるようにしたいとの説明がなされた。

・「学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している」については、肯定的意見56.7%であることから今後さらなる体制を構築し、肯定的意見を増やすとの説明がなされた。

・「教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒の理解やクラス作りのために積極的に活用している」については、出席簿で点呼をとるだけではなく、生徒の表情やクラスの状況を意識するようにしている。肯定的意見が55.1%であるがさらに数値を上げていくとの説明がなされた。

・「緑涼祭や芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している」については、肯定的意見として、生徒72.0%となっていることは評価できる。否定的意見6.8%の改善に努めるとの説明がなされた。

・「教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している」については、否定的意見は8.0%と少ないので充実はできていると思われる。しかしながら、働き方改革の問題も含め、改善に努めるとの説明がなされた

・「学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている」については、特に頭髪について厳しくしたいと考えているとの説明があった。また、遅刻を通して生徒の状況がわかる部分もあるので対応をしっかりと行うとの説明がなされた。

・「学校は、いじめ防止のためにアンケートなどで実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている」については、肯定的意見 51.1%、中間的意見 32.7%であり、概ね理解いただけているが、いじめは見えない部分もあることから、実態をきっちり把握することに努めたいとの説明があった。また、SNS からいじめへ発展することも考えられるので対応について引き続き取り組むとの説明がなされた。

・「学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している」については、理解が深まるようにレベルの高い対応ができているとの説明がなされた。

○教員研修

・「学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている（例：「思いやりと礼節」挨拶の習慣ができるように教育・指導している等）」については、否定的意見が 12.9%であることから正門指導でのあいさつ励行や各種生徒集会での校長講話などを通して対応できているとの説明がなされた。

○進路指導

・「教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している」については、1年生はまだ意識は低いと思うが、否定的意見が 7.6%と低く、教員がアドバイザーとしての専門性を発揮できているとの説明がなされた。

・「授業内容や模擬試験が進路に対応している」については、保護者の数値 42.5%と低いことは望んでいた進路の実現が、現状の授業では困難であるという認識の反映と考えられるとの説明がなされた。

○その他

・「学校は、お便りや谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている」については、全体としては集会等でも触れられており、今後クラスづくりにどのように活かしていくのかもテーマであり、紙ベースの充実も行うと説明がなされた。

・「学校は、施設設備を適正に整備し、高校生活に支障がないよう、安全管理ができている」については、老朽化が進む 3号館や体育館に加え、見かけはきれいではある 1号館も築 20 年が経過し、メンテナンスが必要となってきた。耐震率は 100%であるが安全、快適な教育環境整備に積極的に取り組んでいくとの説明がなされた。

副校長からの説明終了後、区長、区長会会長より、次のとおり、質問・意見交換・感想が述べられた。

感想（区長）……アンケートは昨年度まで「思わない」「あまり思わない」、「ややそう思う」、「そう思う」の4段階であったが、「どちらとも言えない」を入れたことで見た目が向上した形となっていてよい。

意見（区長）……「学校は、いじめ防止のためにアンケートなどで実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている」に関して、否定的意見が16.2%あるのは高いと思う。実態と乖離はないのですか。

回答（副校長）……乖離があるとは思っていないが、この部分に関して言えば、アンケート方法をもう少し考えていくようにしたい。

意見（区長会会長）……生徒の回答は望んだようにはいかないと思う。ただ、生徒の否定的意見が少ないことは、よいことであり、評価してもよいと思う。いじめに関して言えば、対象者を出さないようにしていただきたい。

感想（区長会会長）……建学の理念を浸透させるのはよいこと。

意見（区長会会長）……生徒のSNSの使い方には注意を促してもらいたい。SNSを使用し隠れて個人を攻撃する問題もあり注意が必要である。

回答（副校長）……注意し対応していきます。

意見（区長会会長）……携帯やスマートフォンの持ち込みは可能か。

回答（副校長）……可能としていますが、授業中は使用を不可としています。また、NTTに協力していただきスマートフォンの講習を行っています。

意見（区長会会長）……建物の老朽化が進んでいる件に関しては、経営上の問題もあるがバレーボール部の活躍も顕著であるし改修してはどうか。

回答（副校長）……学園と協議し、検討していきます。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標項目における状況について、自己評価の内容を基に以下の補足説明が副校長よりあった。

○学習指導

- (1) 「教員の出張等による自習については、補講を行い、授業時間数を確保する。」については、授業の遅れがないように取り組んでおり教員の意識も進んできているとの説明がなされた。
- (2) 「補習体制を強化し、留年生を減少させる。勉強クラブだけではなく、個々の質問に応じる体制をさらに構築する。自習中にも教員指導を受けられるよう、教員の配置や巡回を検討する。」については、概ね対応ができているとの説明がなされた。
- (3) 「各種検定試験合格に向けての支援を一層充実させる。」については、大学入試でも有利になる部分もあることから、さらに充実させるとの説明がなされた。

○生活指導

- (1) 「遅刻・欠席の多い生徒については、原因を把握した上で保護者とも連携・協力して生活指導を行い改善につなげる。」については、全体的に生徒はおとなしい印象をもっているが、単なる声掛けに止まらず、生徒の反応や表情を丁寧に観察し、生徒の心身の状況に応じた指導を行うように努めているとの説明がなされた。
- (2) 「不登校・留年・転学・退学の数を減少させるように数値を明示し、原因の萌芽を摘み取る早期対策を講じる。教育・指導効果が上がるように担任・副担任・学年主任・関係委員会のみならず、適宜、校長・校長補佐・教頭補佐に連絡を行い、組織として情報把握することで、有効的な改善策を早期に講じる。」については、留年、転退学を防止するため、不登校委員会で生徒の情報を共有しながら対応し、一人ひとりに適した声掛けを行っているとの説明があった。
- (3) 「校則に違反している生徒については、まずは校則遵守の意味を丁寧に説明し、社会につながる上で必要であることを具体的に理解させていく。点検・指導していく際には、教員によって基準が大幅に異なったりすることの無いよう、また生徒から不平等・理不尽と思われぬように全教職員の同一理解と指導体制の構築が必要となる。」については、遅刻指導等において、生徒の内面に働きかけるような対応を行っているとの説明がなされた。
- (4) 「授業を阻害する行為については、担当教員のみならず担任・学年主任・教科主任等と連携して原因把握・分析を行ない、重層的な教育を行う。」については、担任から生徒に授業を受けることの意義を考えさせているとの説明がなされた。

○教員指導

- (1) 「男女共学での教育・指導方法を精査しながら本校に合うように固めていく。」については、系列高校である、大阪商業大学高校、大阪商業大学堺高校の教育活動（募集イベント、体育祭、文化祭）も参考にしながら、本校の実態に即した教育のあり方、指導方法について学んでいくとの説明がなされた。
- (2) 「研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。」については、「わかりやすい授業が行われている」というアンケートの肯定的意見が 50%あまりにとどまっていることから積極的な研修会の参加、公開授業を活用するとともに系列校との連携も進めるとの説明がなされた。
- (3) 「コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努める。」及び(4) 「授業内容改善・充実のため、従来より効果が上がるように検討し、公開授業や授業アンケートを実施する。」については、各教員が公開授業を実施し、他教員の授業を見学する形式で各教員の授業内容を充実させ、見学後の意見交換で自己研鑽にもつとめるとの説明がなされた。
- (5) 「保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。」については、しっかりと分析し改善に活かすとの説明がなされた。
- (6) 「大学新テストに向けて本校で行うべき取り組みを具体的に策定する。」については、新テストに向けスケジュールを示し対応を行うとの説明がなされた。

○進路指導

- (1) 「早期より多様な選択肢を具体的にイメージできるように指導。進路先の確保」については、総合的な学習の時間において、進路に対する知識と意識を向上させているとの説明がなされた。
- (2) 「系列大学との高大接続を進めて、受験のために必要な知識を身につけ思考力がつくように早期から教育・指導していく。」については、昨年度は系列校へ 5 名が進んだが、今年度は 0 名となり、系列校への関心を高めるような指導を検討するとの説明がなされた。
- (3) 「学生の希望する短期大学・4 年生大学の高大接続を意識した学習を授業内容に盛り込む。」については、大阪女子短期大学の閉学に伴い、4 年生大学へ進路を切り替える過渡期の年度でもある。今後も生徒と向き合い希望に沿った教育ができるよう検討を進めるとの説明がなされた。
- (4) 「指定校の充実と開拓に努める。」については、進路に対する意識の向上に繋がっているとの説明がなされた。

- (5) 「就職の場合にも多様な中から選択できるように就職先の開拓を進める」については、就職先の情報を閲覧しやすいように整理し、対応はできているとの説明がなされた。

○その他

- (1) 「生徒会を中心に、校内外のマナー向上を検討し、実践していく。」については、生徒会が地域清掃活動に取り組むなどの対応を行っているとの説明がなされた。
- (2) 「美化につながる方策を教職員と生徒で熟考し、あらたな取り組みを実践していく」については、環境美化については概ね対応できているが、整理整頓に関してはクラスにより差がみられることから、ふさわしい形を明確にしたうえで整理整頓に取り組むとの説明がなされた。
- (3) 「防犯・健康増進につながる対策をさらに講じていく。」及び(4) 「危機管理対策について、スムーズに運用できるように体制作りを行う。」については、講習会を開催するなど各人の知識を深め、今後の改善に活かすとの説明がなされた。
- (5) 「教員がこれまで課題であったけれど進まなかったと思うこと、合理的でないと思うこと、教育指導上において効果的だと思うこと等について、校長・校長補佐・教頭補佐に相談しやすい体制を構築する。」については、一定の対応はできているが、現状に満足せず引き続き対応していくとの説明がなされた。

副校長からの説明終了後、区長、区長会会長より次のとおり、質問・意見交換・感想が述べられた。

意見（区長）・・・男女の比率はどうなっていますか。昔と比べてどうですか。

回答（調理製菓科長）・・・平成31年4月1日現在では1年生が女子165名、男子52名、2年生が女子130名、男子22名。3年生は共学化ではないため女子80名となっています。これから男子生徒は増加していくと考えています。

意見（区長）・・・英語検定、漢字検定の受験者数が以前より減っているのはなぜですか。

回答（調理製菓科長）・・・以前は全員受験としていましたが希望者のみに変更したためです。

意見（区長）……進路指導において以前は目標値があったのですが現在は示していないのはなぜですか。

回答（調理製菓科長）……指導方法も多様化しており、系列校への進学も視野に入れるにあたり、生徒には自由に選択してほしいという思いから設けておりません。

意見（区長会会長）……教員は全員で何名くらいですか。

回答（教頭）……非常勤も含め 100 名程度です。

感想（区長会会長）……漢字検定について、現代において漢字はネットですぐに検索できる時代である。そういう中で受験しようとする姿勢が重要である。評価できると思う。

意見（区長会会長）……不登校生徒について、退学の要因は何ですか。食らいついて頑張ろうという精神力はないですか。

回答（副校長）……不本意入学の生徒や友人関係で悩みが発生した生徒が見受けられます。強い精神力を養っていくにはどうすればよいか考えていきたいと思えます。

意見（区長会会長）……授業を妨害するような生徒はいるのですか。

回答（教頭）……休み時間の延長で授業が始まっても話が盛り上がり注意する生徒はいますが、授業妨害するような生徒はおりません。

意見（区長会会長）……生徒たちは「高校生である」、「もう大人である」という意識は薄いのですか。

回答（教頭）……高校生活とは、どのようなものか、どのように過ごすか、入学してすぐに行くコミュニケーションキャンプで伝えています。

意見（区長会会長）……大学新テストについてはまだ国の課題が多いですね。

回答（副校長）……そのとおりです。校長会でも反対している状況もあります。

意見（区長会会長）……神戸芸術工科大学は系列校ですか。

回答（副校長）……そのとおりです。

意見（区長会会長）……4年制大学へ進学する生徒は進学コースですか。

回答（調理製菓科長）……文理ハイレベルコースが中心にはなりますが、総合進学コースの生徒も進学します。

意見（区長会会長）……防犯に関する対応はどうなっていますか。物騒な世の中でもあるし対応は必要だと思います。

回答（教頭）……藤井寺駅から本校まで危険な道はありませんが、女子生徒が多い分、19時には完全下校となるよう対策を講じています。また犯罪に巻き込まれることも無いように対応していきます。

意見（区長会会長）……藤井寺イオンがオープンしたが、巡回などは行っていますか。

回答（教頭）……現在においては、行っておりませんが、状況により実施したいと思います。

校長より、防犯について学内では生徒の下校時間・教職員の最終退館時間を決めて管理し、職員室に関係者以外が入室できないようにする等強化していることが説明された。学外でも生徒が犯罪に巻き込まれないような指導を一層行い、生徒の安全を第一に考えて教育に取り組みたいと話された。最後に「お忙しい中、本日はお時間をいただきありがとうございました。貴重なご意見を今後の教育・学校運営の参考とさせていただきます。」と御礼が述べられた。

以 上

令和元年度 第10回 職員会議 会議議事録

日時 令和元年 10月 15日(火)[15時 00分～ 15時 30分]

場所 事務棟 第1会議室

報告1. 平成30年度 学校評価について(副校長)

資料1を参照。

昨年度のアンケートは4件法であったが、今年度は5件法で行った。会議においては、自己評価アンケートの結果ならびに10月7日(月)に受けた学校関係者評価について、次のとおり報告があった。

学習指導に関わる質問では、生徒からの相談について、よい評価が得られた一方で授業についてはやや厳しい結果が出ており、教科で検討を重ね工夫、改善をする余地がある。生活指導に関わる質問では、入学してよかったかについて、生徒・保護者ともによい評価が得られたが甘んじることなくさらに肯定的な評価が増加することを期待する。生徒の健康維持については、心のケアが必要な生徒が多いためもっと充実させるべきであるのか、一定数の生徒は必要がないと感じているため妥当な評価となっているのか、より深く分析する必要がある。学校行事・クラブ活動については、よい評価が得られた。いじめについては、生徒からの相談に比べて特に保護者からの評価が低くなっていることが気付きである。

全体としては、肯定的意見が60%を超える間が多い中、いじめについては50%にとどまっております課題である。また、行事の安定感に比して授業のわかりやすさへの工夫改善を図ることも課題である。学校評価については、後日学校ホームページに掲載されるので、各自確認しておくこと。

議案1. 第1回オープンスクール実施要項(案)(企画広報部)

省略

その他

省略

平成30年度 学校評価アンケート集計(設問は、保護者向けのものを使用しています)

設問		学年	5 そう思う	4 大体そう思 う	3 どちらとも言 えない	2 あまり思わ ない	1 そう思わな い	そう思う 大体そう思う	どちらとも言え ない	あまり思わない そう思わない
1	あなたは本校に入学してよかったと思っている 子どもを本校に入学させてよかったと思っている	1年	21.4%	32.1%	29.3%	10.7%	6.4%	53.6%	29.3%	17.1%
		2年	13.2%	41.2%	32.4%	8.8%	4.4%	54.4%	32.4%	13.2%
		3年	61.5%	20.2%	12.5%	3.8%	1.9%	81.7%	12.5%	5.8%
		全学年	32.1%	31.2%	24.7%	7.8%	4.3%	63.2%	24.7%	12.0%
		保護者	37.8%	35.9%	16.0%	6.3%	4.0%	73.7%	16.0%	10.3%
2	学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている(例:「思いやりと礼節」挨拶の習慣ができるように教育・指導している等)	1年	15.0%	28.6%	42.1%	10.0%	4.3%	43.6%	42.1%	14.3%
		2年	4.5%	36.4%	39.4%	13.6%	6.1%	40.9%	39.4%	19.7%
		3年	46.7%	25.7%	22.9%	3.8%	1.0%	72.4%	22.9%	4.8%
		全学年	22.1%	30.2%	34.8%	9.1%	3.8%	52.3%	34.8%	12.9%
		保護者	14.3%	36.3%	35.2%	10.8%	3.4%	50.6%	35.2%	14.2%
3	学校は、お便りや谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている	1年	22.0%	30.0%	31.3%	11.3%	5.3%	52.0%	31.3%	16.7%
		2年	11.1%	23.6%	40.3%	19.4%	5.6%	34.7%	40.3%	25.0%
		3年	42.6%	27.8%	24.1%	4.6%	0.9%	70.4%	24.1%	5.6%
		全学年	25.2%	27.1%	31.9%	11.8%	3.9%	52.4%	31.9%	15.7%
		保護者	20.2%	34.8%	29.6%	11.8%	3.6%	55.0%	29.6%	15.4%
4	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	1年	17.3%	29.3%	42.7%	6.7%	4.0%	46.7%	42.7%	10.7%
		2年	12.3%	37.0%	34.2%	11.0%	5.5%	49.3%	34.2%	16.4%
		3年	43.5%	30.6%	19.4%	5.6%	0.9%	74.1%	19.4%	6.5%
		全学年	24.4%	32.3%	32.1%	7.7%	3.5%	56.7%	32.1%	11.2%
		保護者	14.5%	40.1%	34.5%	9.2%	1.7%	54.6%	34.5%	10.9%
5	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出勤確認や情報伝達だけではなく、生徒の理解やクラス作りのために積極的に活用している	1年	25.3%	28.0%	34.0%	10.0%	2.7%	53.3%	34.0%	12.7%
		2年	12.3%	24.7%	37.0%	17.8%	8.2%	37.0%	37.0%	26.0%
		3年	47.2%	27.8%	20.4%	3.7%	0.9%	75.0%	20.4%	4.6%
		全学年	28.3%	26.8%	30.5%	10.5%	3.9%	55.1%	30.5%	14.4%
		保護者	17.2%	37.4%	31.7%	7.9%	5.8%	54.6%	31.7%	13.7%
6	教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている	1年	20.7%	33.3%	35.3%	6.7%	4.0%	54.0%	35.3%	10.7%
		2年	15.5%	35.2%	29.6%	14.1%	5.6%	50.7%	29.6%	19.7%
		3年	48.1%	30.6%	16.7%	2.8%	1.9%	78.7%	16.7%	4.6%
		全学年	28.1%	33.0%	27.2%	7.8%	3.8%	61.1%	27.2%	11.7%
		保護者	22.9%	34.3%	30.7%	7.6%	4.5%	57.2%	30.7%	12.1%
7	教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている	1年	17.3%	28.0%	42.7%	10.0%	2.0%	45.3%	42.7%	12.0%
		2年	8.5%	33.8%	43.7%	7.0%	7.0%	42.3%	43.7%	14.1%
		3年	46.3%	29.6%	18.5%	4.6%	0.9%	75.9%	18.5%	5.6%
		全学年	24.0%	30.5%	34.9%	7.2%	3.3%	54.5%	34.9%	10.5%
		保護者	14.0%	35.0%	39.3%	7.7%	4.0%	49.0%	39.3%	11.7%
8	教員は、英語検定や漢字検定の希望する級に合格するよう、または、将来に必要な資格を取得できるように支援している	1年	30.0%	29.3%	34.7%	4.0%	2.0%	59.3%	34.7%	6.0%
		2年	16.4%	35.6%	35.6%	6.8%	5.5%	52.1%	35.6%	12.3%
		3年	43.5%	30.6%	23.1%	1.9%	0.9%	74.1%	23.1%	2.8%
		全学年	30.0%	31.8%	31.1%	4.2%	2.8%	61.8%	31.1%	7.0%
		保護者	17.4%	41.3%	30.2%	8.4%	2.8%	58.7%	30.2%	11.1%
9	教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している	1年	20.7%	28.0%	44.0%	5.3%	2.0%	48.7%	44.0%	7.3%
		2年	9.6%	45.2%	31.5%	8.2%	5.5%	54.8%	31.5%	13.7%
		3年	47.2%	30.6%	20.4%	1.9%	0.0%	77.8%	20.4%	1.9%
		全学年	25.8%	34.6%	32.0%	5.1%	2.5%	60.4%	32.0%	7.6%
		保護者	18.7%	38.7%	31.1%	7.4%	4.2%	57.4%	31.1%	11.5%
10	授業内容や模擬試験が進路に対応している	1年	22.7%	25.3%	43.3%	5.3%	3.3%	48.0%	43.3%	8.7%
		2年	9.6%	28.8%	46.6%	11.0%	4.1%	38.4%	46.6%	15.1%
		3年	47.2%	26.9%	18.5%	6.5%	0.9%	74.1%	18.5%	7.4%
		全学年	26.5%	27.0%	36.1%	7.6%	2.8%	53.5%	36.1%	10.4%
		保護者	9.2%	33.3%	43.8%	9.8%	4.0%	42.5%	43.8%	13.8%
11	緑涼祭や芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している	1年	34.7%	28.0%	30.0%	4.0%	3.3%	62.7%	30.0%	7.3%
		2年	35.6%	35.6%	20.5%	4.1%	4.1%	71.2%	20.5%	8.2%
		3年	53.8%	28.3%	13.2%	2.8%	1.9%	82.1%	13.2%	4.7%
		全学年	41.4%	30.6%	21.3%	3.6%	3.1%	72.0%	21.3%	6.8%
		保護者	33.5%	41.3%	18.0%	4.7%	2.5%	74.8%	18.0%	7.2%
12	教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している	1年	22.0%	25.3%	43.3%	4.7%	4.7%	47.3%	43.3%	9.3%
		2年	17.8%	38.4%	32.9%	5.5%	5.5%	56.2%	32.9%	11.0%
		3年	47.2%	27.8%	21.3%	2.8%	0.9%	75.0%	21.3%	3.7%
		全学年	29.0%	30.5%	32.5%	4.3%	3.7%	59.5%	32.5%	8.0%
		保護者	22.4%	33.2%	36.0%	5.1%	3.3%	55.6%	36.0%	8.4%
13	学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている	1年	25.5%	25.5%	34.2%	8.7%	6.0%	51.0%	34.2%	14.8%
		2年	24.7%	27.4%	32.9%	8.2%	6.8%	52.1%	32.9%	15.1%
		3年	47.2%	28.7%	16.7%	3.7%	3.7%	75.9%	16.7%	7.4%
		全学年	32.5%	27.2%	27.9%	6.9%	5.5%	59.7%	27.9%	12.4%
		保護者	19.9%	40.5%	24.1%	7.4%	8.1%	60.4%	24.1%	15.5%
14	学校は、いじめ防止のためにアンケートなどで実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている	1年	18.7%	26.0%	40.7%	8.7%	6.0%	44.7%	40.7%	14.7%
		2年	8.2%	27.4%	37.0%	16.4%	11.0%	35.6%	37.0%	27.4%
		3年	47.2%	25.9%	20.4%	3.7%	2.8%	73.1%	20.4%	6.5%
		全学年	24.7%	26.4%	32.7%	9.6%	6.6%	51.1%	32.7%	16.2%
		保護者	12.8%	29.1%	38.3%	10.1%	9.7%	41.9%	38.3%	19.8%
15	学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している	1年	21.3%	25.3%	41.3%	7.3%	4.7%	46.7%	41.3%	12.0%
		2年	8.2%	38.4%	43.8%	5.5%	4.1%	46.6%	43.8%	9.6%
		3年	46.3%	26.9%	21.3%	3.7%	1.9%	73.1%	21.3%	5.6%
		全学年	25.3%	30.2%	35.5%	5.5%	3.5%	55.5%	35.5%	9.0%
		保護者	9.8%	31.8%	41.8%	7.9%	8.8%	41.6%	41.8%	16.6%
16	学校は、施設設備を適正に整備し、高校生活に支障がないよう、安全管理ができています	1年	28.7%	23.3%	39.3%	5.3%	3.3%	52.0%	39.3%	8.7%
		2年	11.0%	37.0%	34.2%	12.3%	5.5%	47.9%	34.2%	17.8%
		3年	44.4%	31.5%	19.4%	3.7%	0.9%	75.9%	19.4%	4.6%
		全学年	28.0%	30.6%	31.0%	7.1%	3.2%	58.6%	31.0%	10.4%
		保護者	22.2%	43.5%	23.5%	3.9%	6.9%	65.6%	23.5%	10.8%

平成30年度 学校評価アンケート 比較グラフ

